

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

みやシニア
活動センター
通信 vol.30
(平成30年1月発行)

宇都宮市河内地区特集

河内地区は宇都宮市の北東部に位置し、奥州街道の最初の宿場町として栄えた「白沢宿」や、にほんの里100選に選ばれた「西下ヶ橋」の谷川（やがわ）にはヤマメやホトケドジョウなど様々な生き物が生息する里山の風景が広がります。また、毎年8月15日に五穀豊穡を祈願して白山神社に奉納される天下一関白流神獅子「てんかいちかんぱくりゅうかみじし逆面の獅子舞さかつら ししまい」も市の無形文化財として知られています。

恵まれた立地条件から、梨やイチゴの施設園芸やバラやユリの花卉栽培が盛んな農業、そして河内工業団地や白沢工業団地を中心とした工業も盛んです。

今回は、自然や文化を守りつつ、発展を続ける河内地区で、さまざまな活動・活躍をしているシニアの皆さんを取りとりあげました。



① 誇れる地域づくりのために

増淵 昭さん

② 八面六臂の大活躍

渋井トミ子さん

③ 熱くまちづくりに取り組む

白坂喜美雄さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

今回は、河内地区まちづくり協議会で事務局長を務められている、増渕昭さんを訪ねました。以下は、増渕さんの言葉です。

私は、二つの目標を持っています。一つ目は、お会いした方と別れるとき、「また、会いたいですね。」と言われる人、「あの人」だったらこんなときどうするかな、何か出来事が起きたとき「あの人」ならどのように解決するのだろうかと思われる、そんな「あの人」になりたいと思っています。

二つ目には、子供たちには、親だけではなく、地域の多くの人たちに支えられ生きることや、自由な世の中ですが、人としての礼節も小さなころから身に着けてほしいと思っています。



【増渕昭さん】

そして、子供たちが大きくなったとき、河内地区は良かったと思ってもらえるよう、子供たちと一緒に、良き学びの環境づくりや郷土河内に誇りを持てる活動に力を入れています。仕事をしている期間が約40年間、一日の自由な時間を8時間とし、定年後の60歳から80歳の20年間の自由な時間を一日16時間とすると、どちらも自由な時間は約11万7千時間です。

この時間をどの様に過ごすのかが重要であると、定年の少し前にいろいろと思案しました。中学校時代にやりたくても出来なかったことなども考えたうえで、二つの目標に近づくためには、やはり健康が第一と考え、それには「体の健康・頭健康・心の健康」がそれぞれ大切なのではと思い、「体の健康」は、毎週のテニス、月に数回のゴルフやほぼ毎日のスロージョギング、「頭健康」は、いろいろなジャンルの本や雑誌を読むことです。その中の励まされた言葉、心に留まった文章や名言などは記録し、読み返すなどして、心豊かな人間に少しでも近づくための糧の一つとしています。

「心の健康」は、河川を通じた自然環境保全活動やNPO法人「未来につなごう鬼怒川・小貝川の会」での活動、地域まちづくり協議会などの活動に参画し、心の情緒磨きをしています。

河川に対しては、鬼怒川のそばで育ったせいか非常に愛着があり、よく鬼怒川の土手に行っては川の流る音を聞きながら過ごすこともありました。水は、命を育む存在です。きれいな河川を保つために、河川コーディネーターとして、河川への理解と関心を深めてもらう活動もしています。

河内地区のまちづくり協議会での活動も、これまでの地域の伝統や文化を大切にしながら、現在の地域の特色を生かしたまちづくり、若者から年寄りまで、みんなが力を合わせ協力しあって、活力ある地域にしたいと思っています。

このような様々な活動をしているので、外に出ていることが多いのですが、心置きなく活動が出来るのも、支えてくれる妻あってのことと、口には出さないですが、とてもとても感謝しています。

生まれも育ちも、そして、生活の基盤も河内地区であり、人生の折々に良き友、良き先輩に出会い、より良い方向へ導いてくださった多くの人たちに、今はただただ感謝するばかりです。

今後も、地域のために微力ですが、力を尽くしたいと思っています。



【自然環境野外説明の様子】

今回、河内地区社会福祉協議会会長・福祉協力員連絡会会長の渋井トミ子さんに、社会福祉協議会の会議終了後のお忙しい中、取材をさせていただきました。翌日から、県外宿泊研修が3週間連続であるとのこと。御歳72歳。実に若々しく、はつらつとなさっておいでの方です。



【渋井トミ子さん】

活動に取り組むきっかけは、40歳代、ご息子の小学校入学からのPTA活動。中学生の教育相談に携わったとき、お母さんの立場で生徒の話を誠実によく聞き、時に厳しく対することもあったそうで、相手が次第に本心をさらけ出して話すようになり、解決につながったことがあり、そういった経験が、今の行政相談活動にも生きているそうです。中学校のPTA会長を務め、それ以来、今日まで、自治会長、行政相談員事務局長など、数多くの役員や委員、指導員等としてご活躍され、数々の表彰等を受けておられます。

最近、毎日、地域の高齢で気になる家を訪問し、話し相手になることで、信頼をされ、本音で話せるようになったとのこと。さらに、一人暮らしの高齢者が引きこもりにならないようにと、「わくわくサロン」を立ち上げ、1軒1軒誘って93歳の方も含めて、現在では、20人くらいの高齢者が集まり、月2回、軽微な運動や踊り、歌、ゲーム、仲間が得意分野の講師役になっての勉強会など、多彩な活動を行っています。参加者の皆さんの表情が明るくなり、心をさらけ出して会話が広がり、「これまで、こんな楽しいこと無かった。人生で最も楽しい時間だ。」などの開催を待つ声を聞き、「聞いてよかった」と思うとか。

渋井さんは、「ボランティア活動を自分のためにやっている。」とおっしゃっています。「ありがとう。助かった。変わった。」などの声は、「やっていることは間違っていないとの自信になる。活動を進めるには、多くの知識や多種の情報が必要で、好奇心や勉強、努力、地域や行政、団体等の仲間の協力が不可欠であり、それらの積み重ねが次の活動への自信になっていく。頼られる立場になって、解決につながり感謝されると、自分が進んでやっていることが人のためになり、自分の成長になり、結局自分のためにやっていると思える。」とのこと。重みのあるお話で感動しました。

モットーは「一生懸命」。お話の中に印象的な言葉が次々に飛び出す。「相手の立場や気持ちになって考え、進めていく。」「指導的立場だからこそ、責任を負う。間違いを素直に認める。気配りを忘れない。」「手抜きをすると、必ず、自分の所へ返ってくる。」そのため、毎晩、就寝前には、気になったことや必要事項をノートにメモし、翌日チェックし、やり残しや漏れのないように心掛けているとのこと。まさに、有言実行！毎日が忙しい渋井さんの活躍には、自治会や学校の支援活動でピオトープ作りや野球の審判員として活躍しているご主人のご理解・ご協力があったとのこと。

多忙の中、ダンスやコーラスの趣味をもつ渋井さんの、今後、ますますのご活躍を心からお祈りします。



【「わくわくサロン」のみなさんと一緒に】

③ 熱くまちづくりに取り組む

～河内地区まちづくり協議会 白坂喜美雄さん～ 取材:肥後特派員

宇都宮市と合併して10年になる昨年、人口3万6千人の河内地区は新しいまちづくりを目指して、いろいろな方が、またいろいろな組織や法人が活動してきました。

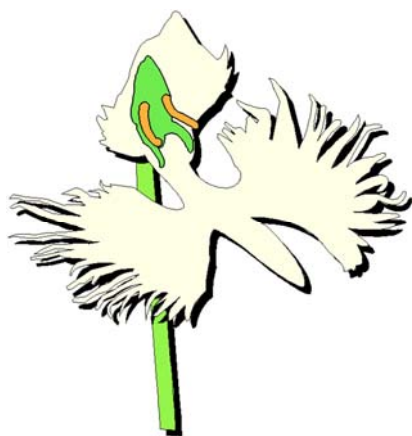
今回は、その中で中心的な存在である「河内地区まちづくり協議会」の白坂喜美雄会長にお話を聞きました。



【白坂喜美雄さん】

画のもとにイベントが行われ、約2万人以上の皆さんが参加しました。河内地区といえば、2014年ねりんピックの年に、attivo(19号)で「かわちゴボウ汁」や「さぎ草汁」を紹介しました。県外からのお客様へのおもてなしということで準備をし、食べてもらい大変な好評を得ました。先ほどの「かわちふるさとまつり」でも振る舞われました。

河内の町の花が「さぎ草」ということです。白坂会長の名刺にも「さぎ草」の写真が刷り込まれています。また、平成27年4月より、「さぎ草」にちなんで、地域内交通として「さぎそう河内号」の運行が開始され、毎月、約1300人の方が利用されています。



【河内の町の花 “さぎ草”】

白坂会長を、まちづくり協議会がある真新しい河内地区市民センターに伺った日は、多くの市民の皆さんが見えており、天候の悪い午前中にも関わらず、大変な活気がみなぎっていました。河内地区市民センターをはじめ、岡本コミュニティプラザや田原コミュニティプラザとも新しい建物であり、何か河内地区の活気の特徴のような感じがしました。

河内地区には、「宮まつり」、「梵天まつり」とあわせて、宇都宮3大祭りを目指す「かわちふるさとまつり」があります。昨年も11月12日にいろいろな企



【大盛況の“かわちふるさとまつり”】

昨年、9月9日夜には、宇都宮青年会議所(JC、金克彦理事長)主催の「OKAMOTO夜市」が、岡本駅西口ロータリーで開催されました。3千人を超える来場者で、400食を超えて用意されたゴボウ汁は完食でした。それだけでなく、用意されたほとんどの品も完食という盛況ぶりでした。この「OKAMOTO夜市」も、今年もっと大掛かりに、もっと盛大に実施されることでしょう。

この他にも、もっといろいろなイベント等が実施されています。面積の広い河内地区ですが、それぞれのエリアでまちおこしやまちづくりとして、いろいろなアイデアが発揮され、皆さん、大変なご活躍をされています。今後を期待したいものです。

皆さんも、是非、河内にお越しください。

○ 発行／編集 みやシニア活動センター (宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課)

住所：宇都宮市中央1丁目1-15 宇都宮市総合福祉センター8階

電話：028-639-8585 ファクス：028-639-8575